

飯館村の誕生

合併の軌跡

歴史の散歩道

飯館村と大館村が合併し、飯館村が成立したのは昭和31年9月30日です。この日は時限立法「町村合併促進法」有効期限の最終日。期限ぎりぎりの駆け込み合併でした。

第二次世界大戦後、民主化が進む中で地方自治は確立されていきました。地方自治法が昭和22年に施行され、地方自治体は法的な裏付けを得ましたが、多くの町村は財政基盤が脆弱で、程なく財政面で行き詰まりました。状況を受け、国と地方の行政事務の再配分や、地方自治体の規模の適正化が議論され、昭和28年、前出の「町村合併促進法」が3年間の時限立法で施行されたのです。

さらに時をさかのぼります。町村制が施行された明治22年、現飯館村を構成する18村が、合併により「大須村」「新館村」「飯曾村」「石

橋村」の4村になりました。昭和17年には飯館村が石橋村を編入。大須村と新館村が合併して大館村となり、飯館村成立直前の2村が形づくられました。

なお、明治22年以前に存在した18村の名称は、現在の地名にも残っています（下図参照。芦股村は菅原）。

飯館村の村名は、飯曾村と大館村の一字ずつを取った合成地名ですが、合併協議会では、自村名に固執する人が両村にあった他、新村名の提案も26案にのぼり、決定に時間を要しました。また、最も協議が難航した役場の場所は、草野地区に本庁、飯樋地区に支所を置く案で決着しました。

期限が迫る中、昭和31年9月19日に両村議会で議決に至り、同30日に飯館村が誕生しました。

現在の飯館村を構成する旧18村。昭和17年に、 が旧大館村、 が旧飯曾村に合併。（飯館村史第1巻「通史」の地図を流用）



昭和35年に完成した本庁舎。現在の飯館村商工会館及び教員住宅が建っている場所でした。

子どもが生まれてからの一生をやさしい言葉と絵で描く母親と娘の物語。親の立場になった時、子を想い、見守り、成長していく背中をそっと押ししていく。常に一緒だった子は、やがて自分の足で歩き、巣立っていく。読めば心がほっと温かくなり、やさしい気持ちになります。また、子どもの立場になって読めば、自分が周りの家族にどれだけ大切に想われ、育ててもらったかを気付ける1冊となっています。



アリスン・マギー 文
ピーター・レイノルズ 絵
ながわちひろ 訳
主婦の友社 発行

「ちいさなあなたへ」

おすすめ図書を紹介します

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

いいたて7 イノサル通信

伊丹沢モデル事業報告2

～柵による防除試験の結果～

広報いいたて9月号で、ニホンザルの被害が出ている農地で行う防除試験について紹介しました。この防除試験では、地域の方々協力し、サルが侵入できないよう、設置されている柵の改善を行いました。また、改善の効果を調べるため、動物が来たら分かるよう、自動撮影カメラを設置しました。今回は、その結果を報告します。

柵の改善

- ▶ 乗り越えられることを防ぐため、電線の間隔を修正。(ワイヤーメッシュ柵上部から1段目は5cm、2段目と3段目は10cm間隔)
- ▶ 飛び込みを防ぐため、建物や電柱などから柵を3m以上離す。

これで侵入が防げる!と思ったのですが、残念ながら、侵入されてしまいました。しかし、自動撮影カメラにより、いくつかのことが分かりました。

わかったこと

- ▶ 電気柵(柵の上部)を乗り越えようとするサルは少ない。
- ▶ 乗り越えようとしても、電気柵線の間隔が正しく、電圧等に問題なければ防げる。
- ▶ 目の粗い柵は、補修が必要。

侵入された箇所を現地で確認したところ、柵の目が粗くなっていたため、再び入れられないよう補修しました。

周辺の地形や柵の構造は、それぞれの農地で違うため、予想外の原因で侵入されてしまうことがあります。しっかり観察し、農地に合わせて改善することで、被害を防げる柵にしましょう。



サルが侵入できた箇所。(タテ約12cm、ヨコ約20cm、はがき2枚分弱)

侵入の原因が分からない場合など、避難地域鳥獣対策支援員にご相談ください。

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからののお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

鉄谷 龍之 さん

平成31年4月から同支援員。令和3年から飯館村の鳥獣対策に携わり、今年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。

自動撮影

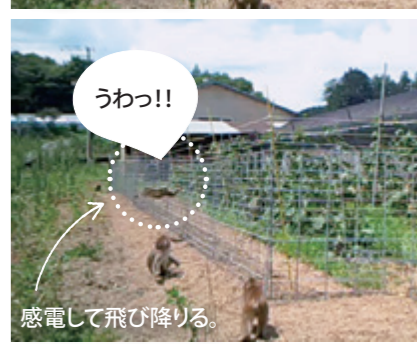
カメラは見た! おさるの侵入



ワイヤーメッシュを登らず、もぐり込める場所を探す。



電気柵部分からの侵入を試みる。



感電して飛び降りる。



ワイヤーメッシュの目が粗い箇所を見つける。